

# 気付きを自覚し、 気付きの質を高めることができる生活科指導の工夫 —— 観点を示したワークシート「なるほどカード」の活用を通して ——

長期研修員 山川 安津子

## 《研究の概要》

本研究は、小学校生活科の学習において観点を示したワークシート「なるほどカード」を活用することによって、気付きを自覚し、気付きの質を高めていけるようにすることを目指したものである。「なるほどカード」を、活動や体験をするときや、活動や体験を振り返るときに用いたり、「なるほどカード」にかいたことを基に交流したりすることにより、気付きを自覚したり、気付きを関連付けたりして、気付きの質を高めていけるようにする。また、単元全体を振り返る場面では、かきためた「なるほどカード」を児童が選んだ方法でまとめ、単元全体の学習を振り返り、対象と自分との関わりや自分自身の成長に気付けるようにしていく。

**キーワード** 【生活科 気付き 気付きの質を高める 観点を示す ワークシート】

群馬県総合教育センター

分類記号：G12-01 平成28年度 259集

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説生活編によると生活科における課題には、「学習活動が体験だけで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないこと」「表現の出来映えのみを目指す学習活動が行われる傾向があり、表現によって活動や体験を振り返り考えるといった、思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導が行われていないこと」などが挙げられている。

はばたく群馬の指導プランでは生活科の課題として、「対象に関わる中で、自分なりの気づきをもつこと」「見たことや思ったこと等を絵や言葉などで表すこと」「身近な人の考えなどを自分の中に取り入れること」が挙げられている。また、解決に向けて伸ばしたい資質・能力を「繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりすることができる」「考えたことや感じたことなどを表現方法を選んで表すことができる」「考えたことや感じたことなどを身近な人と交流することができる」としている。

所属校の児童は、対象と関わっている場面では、生き生きと楽しそうにしている。しかし、見たことや思ったことをかく際には、何をかけばよいか分からず硬い表情や困った表情をしていることがある。かき始めてもかいたり消したりを繰り返したり、些細なことを聞きに来たりする。

そこで、生活科の授業において、児童が活動や体験をしたことを振り返り、対象との関わりに気付くことができる観点を示したワークシート「なるほどカード」を作成することとした。これは、活動や体験の中で、児童一人一人が無自覚だった気づきを自覚できるようにしたり、気づきを関連付けたり、対象と自分との関わりに気付いたり、自分自身の成長に気付いたりできるようにするためのワークシートである。そのために、児童が活動や体験を通して気付くと思われることや、教師が児童に活動や体験を通して気付いてほしいことをあらかじめ想定してワークシートに観点として示す。児童が記述した「なるほどカード」は、活動や体験を振り返り身近な人と交流をする時の視点になり、児童は対象について関連付けられた気づきを生み出すことができる。さらに、児童がかきためた「なるほどカード」を絵本や新聞など自分が選んだ方法でまとめ、単元全体を振り返ることにより、対象と自分との関わりに気付いたり、自分自身の成長に気付いたりすることができると思う。

以上のことから、観点を示した「なるほどカード」を活用することで、気づきを自覚し、気づきの質を高めることができる児童を育成することができると思う、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

生活科において、気づきを自覚し、気づきの質を高めることができるようにするために、観点を示したワークシート「なるほどカード」を用いることの有効性を授業実践を通して明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

本研究で用いる「なるほどカード」は、児童が気付くと思われることや、教師が児童に活動や体験を通して気付いてほしいことをあらかじめ想定し、観点として示したワークシートである。

### 1 対象への気づき

活動や体験をしている場面や活動や体験を振り返る場面で、「なるほどカード」を用いて表現する活動を取り入れることで、対象への気づきを自覚することができるであろう。

### 2 気づきの関連付け

繰り返しの活動や体験、身近な人たちとの交流の後に、「なるほどカード」を用いて表現する活動を取り入れることで、関連付けられた気づきを生むことができるであろう。

### 3 対象と自分との関わりや自分自身の成長への気付き

単元の終末において、「なるほどカード」にできるようになったことを表現する活動を取り入れたり、かきためた「なるほどカード」を表現方法を選んでまとめ、単元全体を振り返ることで、対象と自分との関わりや、自分自身の成長に気付くことができるであろう。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 気付きとは

小学校学習指導要領解説生活編第1章総説2生活科改訂の趣旨(1)改善の基本方針には、気付きとは、「対象に対する一人一人の認識であり、児童の主體的な活動によって生まれるものである。そこには、知的な側面だけでなく情意的な側面も含まれる。また、気付きは次の活動や自発的な活動を誘発するものとなる」とある。知的な気付きとは秋の葉は赤や黄色に変わるなどの知識、情意的な気付きとは木の葉の色が変わることを「不思議だ、きれいだ」などと感じる自分の思いや願いと捉える。

#### (2) 気付きの質を高めるとは

小学校学習指導要領解説生活編第1章総説2生活科改訂の趣旨(1)改善の基本方針では、「活動や体験を繰り返したり他者とともに活動したりすることで、自分と対象とのかかわりが深まり、気付きが質的に高まっていくようにするとともに、気付きの質を高めて、次の活動や体験の一層の充実につなげていくことを目指している。また、気付きの質を高めることが、科学的な見方や考え方の基礎を養うことにつながる」とある。第2生活科の目標第1節教科目標2教科目標の趣旨(2)自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつことの中に、「気付きは、活動を繰り返したり対象とのかかわりが深まったりすることに伴い、無自覚なものから自覚された気付きへ、一つ一つの気付きから関連づけられた気付きへと質的に高まっていくことが大切である。それと同時に、対象に対する身体の振る舞いも洗練され、質の高いものになっていく」とある。第2生活科の目標第1節教科目標2教科目標の趣旨(3)自分自身や自分の生活について考えることの中で、「生活科は、働きかける対象への気付きだけではなく、自分自身の気付きへと質的に高まることも大切にする」とある。

はばたく群馬の指導プランでは、気付きの質が高まっていく過程を「対象の存在や特徴についての気付き」「対象についての新たな気付き」「対象と自分との関わりへの気付き・自分自身への気付き」の三つに表している。

そこで、本研究では、対象への気付きを自覚し、その気付きを関連付けることを経て、対象と自分との関わりへの気付きや、自分自身の成長への気付きに至る過程を気付きの質を高めることとする。

#### (3) 気付きの質が高まっていく3つの段階

本研究では、気付きの質が高まっていく過程を、三つの段階で捉えた。活動や体験したことを振り返ることで対象への無自覚だった気付きを自覚することを「対象への気付き」とする。「僕のアサガオの茎は紫色だよ。～ちゃんの茎は緑色だよ。どうしてかな？」など、一つ一つの気付きを関連付けたものを「関連付けられた気付き」とする。「アサガオがきれいに咲いたのは、世話を頑張ったからだよ」など、対象と自分との関わりに気付くことや「アサガオを育てるために毎日世話をすることができた」など自分自身の成長に気付くことを「対象と自分との関わりへの気付き・自分自身の成長への気付き」とする。

#### (4) 観点について

観点とは、児童が活動や体験を通して気付くと思われることや、教師が児童に活動や体験を通して気付いてほしいことをあらかじめ想定し、気付きを自覚したり、気付きを関連付けたりしていくことができるようにするためのものである。

大観点とは、児童が活動や体験をする時や活動や体験を振り返る時に気づきを自覚したり、気づきを関連付けたりすることができる言葉である。また、教師が児童に気づきを自覚してほしい時に児童に投げ掛ける言葉である。

小観点とは、具体的に着目する箇所である（表1）。

(5) 観点を示したワークシート

「なるほどカード」について

「なるほどカード」とは、活動や体験の中で、児童一人一人が無自覚だった気づきを自覚できるようにしたり、気づきを関連付けたり、対象と自分との関わりに気付いたり、自分自身の成長に気付いたりできるようにするためのワークシートである。表1の「大観点」と「小観点」を組み合わせるワークシートを作成する。活動や体験をする場面や活動や体験を振り返る場面、また、単元全体を振り返る場面で用いる。

児童は、「なるほどカード」にかいたり、かいたことを基に交流したり、かきためた物を見返したりすることで、対象への気づきを自覚したり、一つ一つの気づきを関連付けたり、対象と自分との関わりや自分自身の成長に気付いたりすることができる。「なるほどカード」には、「なるほどカードA」（図1）と、「なるほどカードB」（図2）があり、児童の実態や授業のねらい、活動内容等によって使い分ける。

表1 観定の例

観点	大観点	小観点
大観点	【大観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」	【小観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」
大観点	【大観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」	【小観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」
大観点	【大観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」	【小観点の例】 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」 「何を、何で、何をして、何をしたか、何をしたか、何をしたか」

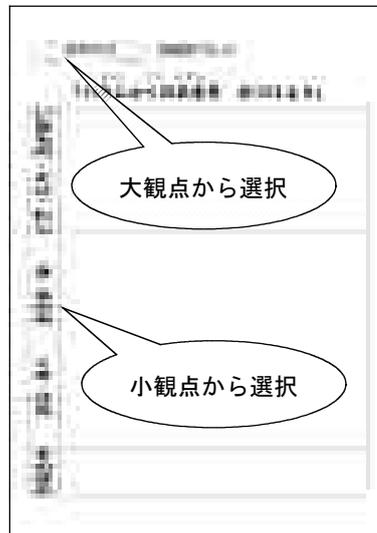


図1 「なるほどカードA」の例

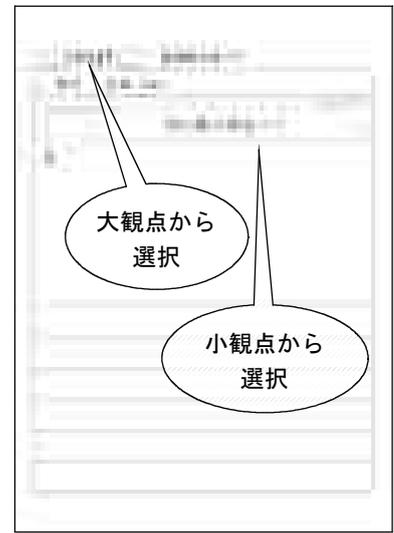


図2 「なるほどカードB」の例

① 「なるほどカードA」について

表1を基に1枚のワークシートに、大観点を一つと小観点を複数示す。小観点は、児童の実態や授業のねらい、活動の内容等により選択する。複数の小観点を提示することで多くのことを考え、気付いたことをかくことができる。児童が観点以外のことも記入できるように自由にかく欄も設ける。

② 「なるほどカードB」について

表1を基に1枚のワークシートに大観点と小観点を一つずつ示す。小観点に示した内容について考えてかくことにより、気づきを自覚したり、一つ一つの気づきを関連付けたりすることができる。数種類の「なるほどカードB」を提示し、児童がかきたいカードを選択する場合と教師が気付いて



見通し2 関連付けられた気付き	繰り返し活動や体験をしている場面や、身近な人たちとの交流の後に、「なるほどカード」を用いて表現する活動を取り入れることは、関連付けられた気付きを生むことに有効であったか。	○繰り返し活動や体験をした後の「なるほどカード」の記述 ○交流における発言 ○交流の後に記述した「なるほどカード」の記述
見通し3 対象と自分との関わりや自分自身の成長への気付き	単元の終末において、「なるほどカード」にできるようになったことを表現する活動を取り入れたら、かきためた「なるほどカード」を表現方法を選んでまとめ、「なるほどカード」を見返し、学習を振り返る活動を取り入れたことは、対象と自分との関わりや、自分自身の成長に気付くことに有効であったか。	○「なるほどカード」の記述・発言・つぶやき・行動観察 ○事後調査

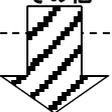
### 3 抽出児童

A	活動に意欲的に取り組むことができる。生活の中でいろいろな経験をしていて、自分の考えを持っている。文字の読み書きも容易にでき、絵を描くことも好んでいる。授業中の発言も多い。
B	活動にまじめに取り組むことができる。言葉で表現することが苦手で、友達が道具を使っているときは、自分から借りることができずに順番を待つことが多い。自分で考えて、絵や文字をかくことはできるが、内容が深まらないことが多い。
C	興味・関心がいろいろなところにとれてしまい、活動に集中して取り組むことができない。特にかき始めるまでに時間がかかる。ポイントを指示したり、近くに寄って支援すると、安心して取り組むことができる。

### 4 評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然や、自然物を利用したおもちゃ作りや遊びに関心を持ち、安全に気を付けて、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	自然物や身の回りにある物を利用して、おもちゃを工夫して作ったり、みんなで楽しく遊べるように約束やルールを考えながら遊んだりしている。	夏から秋へ自然の様子が変わることや、秋の自然物の特徴や様子に気付いている。自然物を使っておもちゃを作ったり、遊んだりできること、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。

### 5 指導計画（全24時間予定 生活科22時間＋図画工作科2時間）

過程	時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカード</li> <li>・大観点・小観点</li> <li>(なるほどカードの色)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主な学習活動</li> <li>●「なるほどカード」を使用する活動</li> <li>◇評価基準</li> </ul>
であうはたらきかける	1		○幼稚園や保育園の生活を思い出し、秋について知っていることや秋にしたことを発表する。 ○植物や生き物、生活の様子など、6月中旬の様子と比較する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカードA</li> <li>・見つけよう</li> <li>・生き物・鳥・虫</li> <li>・木・木の実・草・花</li> <li>・その他</li> </ul> (白)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校庭で植物や生き物等を探す。</li> <li>●見付けた草や花等を「なるほどカードA」にかいたり、実物を貼ったりする。</li> <li>●「なるほどカードA」を基に、秋の校庭の様子について気付いたことを話し合う。</li> </ul>
	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童がかいた「なるほどカードA」の内容をまとめたものを拡大した表を見て、季節が変わってきたことに改めて気付く。</li> <li>○6月中旬の岩宿遺跡の公園の様子を思い出し、岩宿遺跡の公園に行く計画を立てる。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカードA</li> <li>・見つけよう</li> <li>・生き物・鳥・虫</li> <li>・木・木の実・草・花</li> <li>・その他</li> </ul> (黄)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○岩宿遺跡の公園へ行く。</li> <li>○外部講師（桐生自然観察の森の職員）から、秋の自然物を見付ける方法を教えてもらう。</li> <li>○秋の自然物を見付けるために探検をする。</li> <li>●見付けた草や花等を「なるほどカードA」にかいたり、実物を貼ったりする。</li> </ul> 
	5		
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカードB</li> <li>・比べよう</li> <li>・比べてみたら</li> <li>・大発見！</li> </ul> (白)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公園でかいた「なるほどカードA」を見て、公園の秋の様子について気付いたことを話し合う。</li> <li>●公園で見付けた物や遊んだことを振り返り、校庭の様子との違いや6月中旬の岩宿遺跡の公園の様子を比べ、気付いたことを「なるほどカードB」に記述する。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカードA</li> <li>・分かった</li> <li>・気付いた</li> <li>・初めて知った</li> <li>・驚いた</li> <li>・分かった</li> <li>・思った</li> </ul> (白)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公園で見付けた物や遊んだことを振り返り、「なるほどカードB」に記述したことを基に、クラス全体で交流する。</li> <li>●交流を通して気付いたことを「なるほどカードA」にかく。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なるほどカードA</li> </ul>	○秋の自然物を使いおもちゃを作り、お祭りのようにお店を開いてみんなで遊ぶことを知る。

		<p>〈設計図〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作る物</li> <li>・遊び方</li> <li>・準備する物</li> </ul> <p>(白)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園の先生からの手紙を読む。</li> <li>○おもちゃを使って遊んだ後に、幼稚園児ともおもちゃを使って遊ぶことを知る。</li> <li>○教科書や図鑑を参考にして作るおもちゃを決める。</li> <li>●「なるほどカードA」をかき、準備する材料や道具を考える。</li> </ul>
	9		○どのようにおもちゃを作りたいか、思いや願いを発表する。
	10		○設計図を見ながら、おもちゃを作る。
	11		○同じおもちゃを作っている人でグループになり、作ったおもちゃを見せ合う。
	12		○材料や作り方など、同じ所や違うところを友達と伝え合う。
	13		○更に工夫しておもちゃを作る。
ふりかえる	14	<p>●なるほどカードA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張った</li> <li>・飾りや絵</li> <li>・大きさ</li> <li>・数</li> <li>・種類</li> <li>・音</li> <li>・その他</li> </ul> <p>(白)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おもちゃ作りを振り返り、「なるほどカードA」をかく。</li> <li>●「なるほどカードA」を基に、おもちゃ作りや遊び方の工夫を振り返り、発表する。</li> <li>●新聞や絵本、屏風、巻物から好きな方法を選んでこれまでにかけた「なるほどカード」をまとめる。</li> </ul>
	15		
はたらきかける	16		○グループでおもちゃの遊び方を考える。
	17		○グループでお祭りに必要な物を考えて作る。
	18		○お祭りを屋台形式で行い、お店の人とお客さんに分かれて、作ったおもちゃで遊ぶ。
	19		●お客さんに、新聞や絵本、屏風、巻物を見せて、おもちゃの紹介をする。
	20		○お客さんは、楽しかったことをお店の人に伝える。
	21	<p>●なるほどカードA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張った</li> <li>・頑張ったこと・できるようにになったこと</li> <li>・友達としたこと</li> </ul> <p>(白)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生のお祭りを振り返る。</li> <li>○自分たちのお店で改善したいところを話し合う。</li> <li>○幼稚園児を招いて行うお祭りの準備をする。</li> <li>○幼稚園児がお客さんになり、幼稚園児におもちゃの遊び方を教えながら一緒に遊ぶ。</li> <li>○後片付けをする。</li> <li>●幼稚園児と遊んだことを振り返り、「なるほどカードA」に記述する。</li> </ul>
ふりかえる	22		
	23		
	24	<p>●なるほどカードA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようにになった</li> <li>・できた</li> <li>・分かった</li> <li>・頑張った</li> </ul> <p>(白)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼稚園児と遊んだことを振り返り、「なるほどカードA」に記述したことを基に、クラス全体で交流する。</li> <li>●秋の自然観察をしたことやおもちゃを作ったこと、おもちゃを作り遊びを考えたことを通して気付いたことを「なるほどカードA」にかく。</li> </ul>

## VI 研究の結果と考察

### 1 対象への気付きを自覚できるようにするための「なるほどカード」の有効性について

#### (1) 第4・5時の結果（岩宿遺跡の公園で秋の自然物を見付ける場面）

生き物や植物などの秋の自然物について観察できるようにしたいと考え、大観点が「見付けよう」、小観点が「生き物・鳥・虫」「木・木の実・草・花」の「なるほどカードA」を提示した。

##### ① 全体の様子

秋の自然物を探して見付ける場面で、大観点「見付けよう」小観点「生き物・鳥・虫」「木・木の実・草・花」と示した「なるほどカードA」には、気付いた物の名前を記述しても実物を貼ってもよいこととした。秋の自然物を見付ける時は、児童の安全を確保し、活動の支援を行うために児童を8人～9人の3グループに分け、グループごとに外部講師と教師が1人ずつ付いた。活動中に教師は、「木の実は、見つかった？」など、「なるほどカードA」の観点到添って、声を掛けるようにした。外部講師は、「この辺りで秋の物が見付けられるよ」など声を掛けたり、児童が見付けた物の名前を教えたりした。

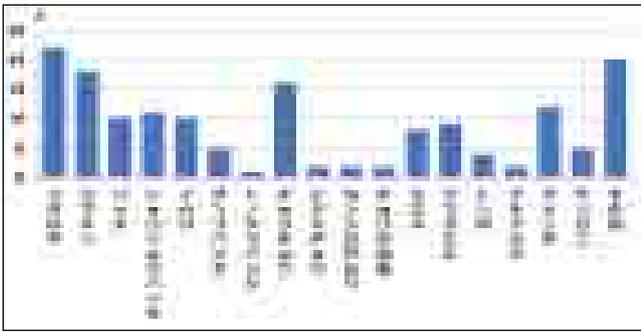


図4 見つけた生き物と数  
注：調査数26人 複数回答

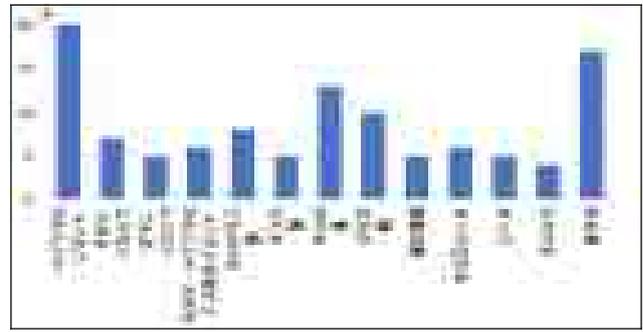


図5 見つけた植物と数  
注：調査数26人 複数回答

「なるほどカードA」にかかれた対象への気づきをまとめた結果は、図4、5の通りである。90分の活動時間の中で、児童は22種類の生き物や、23種類の植物を見付けることができた。最も多く記述、または添付していた児童は19種類、少ない児童で4種類、1人当たりの平均は10.4種類である。外部講師もいたため、気付いた生き物や植物の名前を詳しく聞いて記述する姿が見られた。全ての児童が対象への気づきを自覚することができた。

② 抽出見の様子

抽出見A	抽出見B	抽出見C

図6 抽出見A・抽出見B・抽出見Cの記述

抽出見Aは、3種類の虫の名前を記述し、7種類の植物を貼った。抽出見Bは、「カエル（カエルがいた）」「カマキリ捕まえた。イエーイ、5匹目」などと生き物を見付けて捕まえていた。「なるほどカードA」には7種類の虫を記述した。その中で、チョウチョウについては絵を描き、カマキリについては色を言葉で記述していた。また、カツラの葉についても匂いを記述している。抽出見Cは、友達がカエルを見付け「カエルだ」と叫ぶと、すぐに近くに寄ってきてカエルの様子を観察したり、自らカエルを捕まえようとしたりしていた。「なるほどカード」には、3種類の生き物を文章で記述している。文章で記述していたのは、抽出見Cのみであった。チョウチョウの幼虫については絵を描き、色は赤と黒と文字で書き添えられていた。

(2) 第4・5時の考察（岩宿遺跡の公園で秋の自然物を見付ける場面）

① 全体の考察

全員の児童が、見つけた秋の自然物を「なるほどカードA」にかいたり、添付したりすることができた。「なるほどカードA」を児童に配付すると、児童から「虫を探そう」「木の実を見付けよう」などのつぶやきを聞くことができた。このような言葉から、「なるほどカードA」に「生き物・鳥・虫」「木・木の実・草・花」という観点があることで児童の興味や関心が高まったことが分かる。また、見付ける対象物が明確になり、見付けるときのめあてを持つことができ、たくさんの種類の秋の自然物に気付くことができた。植物を直接貼れるようにしたことで、名前が分からなく

でも貼ることができた。文字を書くことが苦手な児童にとっても「なるほどカードA」に表現する上で有効な手段であった。また、見付けた対象物の名前を書き込む際には、外部講師に名前を確認し、「なるほどカードA」に記述することができた。

## ② 抽出児についての考察

抽出児Aは、「木・木の実・草・花」の欄にいろいろな植物を貼っている。その中には、名前の分からない黒い小さな実がある。名前を知らない植物を貼ることができるようにしたことも、対象への気づきを自覚することに有効であった。

抽出児Bは、活動中に多くの生き物と触れ合うことができた。「なるほどカードA」に「生き物・鳥・虫」という観点を示したことにより、活動後に見付けた生き物を思い出し、かくことで対象への気づきを自覚することができた。

抽出児Cは、自分からカエルを捕まえようとするなど、対象物に積極的に関わろうとしていた。「なるほどカードA」には、複数の生き物についてかくことができた。その中でもチョウチョウの幼虫については、色と関連付けて具体的に「赤と黒の色」と記述していた。これは、幼虫を見て色に驚いたという情意面での気づきがあったためと思われる。

抽出児B、抽出児Cは、「なるほどカードA」を用いて、活動を振り返るようにしたことで、見付けた対象物を思い出し、対象への気づきを自覚することができた。また、見付けた植物を貼り付けられるようにしたことで、名前を知らない植物についても気づきを自覚することができた。

「なるほどカードA」を活用することで活動する時にめあてを持つことができたため、外部講師に説明をしてもらう時や自然物を観察するときに興味や関心を持ち、対象物を詳しく観察し、発見する喜びを持つことができたので、気付いたことを言葉や絵でかくことができたと考えられる。

## 2 気づきを関連付けるようにするための「なるほどカード」の有効性について

### (1) 第6時の結果（校庭と岩宿遺跡の公園で見付けた自然物を比較する場面）

#### ① 全体の様子

第6時では、校庭と岩宿遺跡の公園で見付けた物を比べたり、自分と友達の見付けた物を比べたりできるように、大観点が「比べよう」、小観点が「比べてみると…」 「大発見」の2枚の「なるほどカードB」を提示した。また、観点以外のこともかけるように観点が示されていない「フリーカード」も用意し、3枚から選択できるようにした。「自分は見たこともないような物を発見した」など、かくことが楽しくなるように小観点を工夫して提示し、児童が自信を持ってかけるようにした。授業では、「比べてみると…」を選んだ児童は3人(12%)、「大発見」を選んだ児童は18人(69%)、フリーカードを選んだ児童は5人(19%)であった。フリーカードを選んだ児童は、「楽しかったこと」、「どうしていい匂いがするの?」と自分で観点を記述した。「なるほどカードB」にかかれていた生き物や植物は、図7の通りである。センチュウやヤブキリなど児童が初めて見たり、名前を聞いたりしたと思われる昆虫や植物についての記述もあった。植物よりも、生き物について記述をした児童が多かった。

図8は、「なるほどカードB」の記述から関連付けられた気づきをまとめたものである。「楽しい」

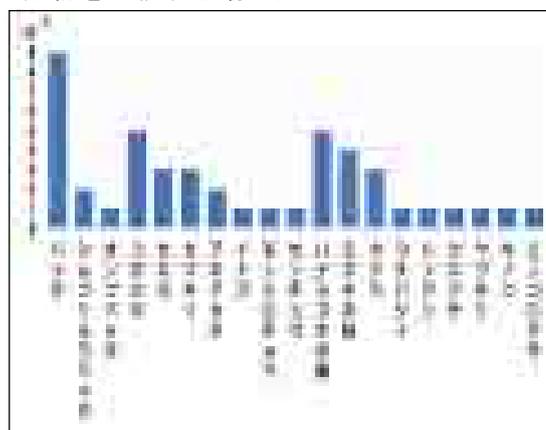


図7 第6時に児童が記述した生き物や植物  
注：調査数26人 複数回答

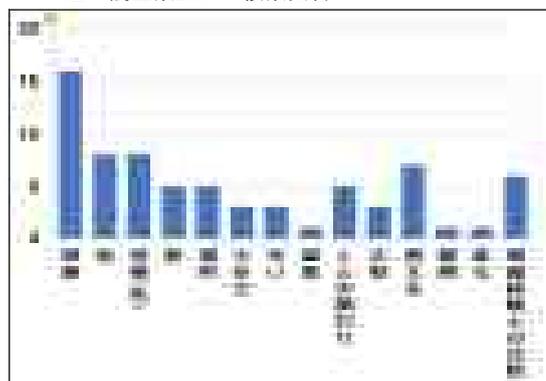


図8 関連付けられた気づきの種類と数  
注：調査数26人 複数回答

「驚いた」などをまとめ「情意」とした。友達や外部講師に教えてもらった内容の記述は「人との関わり」としてまとめた。「今まで見たこともない」「保育園の頃にもあった」など、今までの知識と照らし合わせて考えた記述は、「既習の知識との比較」としてまとめた。

「なるほどカードB」には、見付けた自然物について、全ての児童が記述することができた。児童は、色や大きさ、形などについて気付きを関連付けることができた。

## ② 抽出児の様子

抽出児A、抽出児B、抽出児Cの様子は図9のとおりである。抽出児Aは、カツラの葉の匂いについて記述している。抽出児Bは、カツラの葉がイチゴの匂いに似ていることに気付いた。抽出児Cは、カエルが跳ぶことやカエルのいた場所を記述していた。

抽出児A	抽出児B	抽出児C
フリーカードを選択	「だいはっけん!!」を選択	「だいはっけん!!」を選択
 <p>どうしていいにおいがするの。わたしはいいにおいのするはっばを見つけました。でも、どうしてふつうのはっばはおわないのに、このはっばだけいいにおいがするのですか。</p>	 <p>まてばしいをみました。かつらをみたいよ（見たよ）。いちごのにおいがした。はじめてみて、うれしかった。</p>	 <p>しろい(薄茶色)かえるをみました。とってもきれいかったです。あと、とぶところがおもしろかったです。くさのそばにいました。</p>

図9 抽出児A・抽出児B・抽出児Cの様子

## (2) 第6時の考察（校庭と岩宿遺跡の公園で見付けた自然物を比較する場面）

### ① 全体の考察

児童が校庭と岩宿遺跡の公園で見付けた自然物を比べることで、「校庭になくて、岩宿遺跡の公園にある物は何だろう」と考え、「岩宿遺跡の公園には〇〇があった!」と気付くことができたと考え。「比べる」という観点を示したことで見付けた対象物を思い出し、対象物の特徴を意識して「なるほどカードB」に記述したと考える。

「比べる」という観点を示すことで、「(見付けた)赤い実は小指くらい大きさだった」など対象物と自分を比べたり、「(見付けた枝は)サングミみたいな枝だった」など対象物と知っている物を比べて、例えたりすることができた。「今まで見たこともない枝だった」や「保育園にもあったキンモクセイが岩宿にあった」など、既習の知識を想起して、知っている対象物と比べたり、「丸い物(マテバシイの小さな実)がどんぐりになる」と、丸い小さなマテバシイの実と大きくなった実を比べて変化を捉えたりすることができた。以上のことから、活動や体験を繰り返した後に「比べる」という観点を示した「なるほどカードB」を提示し、表現する活動を取り入れたことは、気付きを関連付け、気付きの質を高めることに有効であった。

### ② 抽出児についての考察

「比べる」という観点を示したことで、抽出児Aは「どうしてカツラの葉はいい匂いがするんだろう」と他の葉と比べ、疑問を持つことができ、抽出児Bは、「カツラの葉は、イチゴの匂いに似ている」と、知っている対象物のイチゴとカツラの葉の甘い匂いを関連付けて例えることができた。抽出児Cは、緑色のカエルと「白いカエル」を比べ、色について気付きを関連付けることができた。

(3) 第7時の結果（校庭と岩宿遺跡の公園で見つけた自然物を比較した「なるほどカードB」を基に友達と交流する場面）

① 全体の様子

第7時は、第6時にかいた「なるほどカードB」を基に感想や意見を伝え合う交流の場を設定し、気づきを共有し、友達の気づきと比べ、気づきを関連付けられるようにした。

児童は、友達の意見を基にバッタやイナゴを比べて、どちらも跳ぶことや草の中に住んでいることに気付くことができた。また、バッタにもオンブバッタなどいろいろな種類があり、それぞれに特徴があることなどに気付くことができた。植物については、公園にはいい匂いがするカツラの葉、サンゴのようなミズキの枝、ハナミズキの赤い実など、いろいろな秋の自然物があることに気付くことができた。特にいい匂いのするカツラの葉については、「イチゴのような匂い」がするという感想から、「綿飴みたいな匂いにも似ている」という関連付けられた気づきも生まれた。

② 抽出見の様子

表2は、抽出見A・抽出見B・抽出見Cの第6時の「なるほどカードB」と、第7時の「なるほどカードA」の記述内容をまとめたものである。

表2 抽出見A・抽出見B・抽出見Cの第6時の「なるほどカードB」と第7時の「なるほどカードA」との比較（下線は関連付けられた気づき）

	抽出見A	抽出見B	抽出見C
第6時	どうしていい匂いがするの？私はいいにおいのする葉っぱを見付けました。でも、どうして普通の葉っぱは匂わないのに <u>この葉っぱだけいい匂いがするのですか？</u>	マテバシイを見ました。カツラを見たいよ。 <u>イチゴの匂い</u> がした。初めて見て嬉しかった。	白いカエルを見ました。とってもきれいだったです。あと、跳ぶところがおもしろかったです。 <u>草のそばにいました</u>
第7時	私は、いい匂いがする葉っぱはどうしていい匂いがするのか、みんながいろいろなアイデアを出してくれたから、 <u>いい匂いのする葉っぱのことをもっと知りたいな</u> と思いました。	草の所にいたのは、バッタくらいだった。 <u>カマキリを手で捕まえないよ</u> <u>バッタとイナゴは草に住んでいます</u> 。 虫が怖くなくなった。	私は、 <u>ミズキつやつが初めて見</u> なです。 <u>とってもきれいだった</u> です。

(4) 第7時の考察（校庭で見つけた自然物と岩宿遺跡の公園で見つけた自然物を比較する場面）

① 全体の考察

友達との交流の後に、大観点が「分かった」、小観点が「気付いた・初めて知った・驚いた・分かった・思った」を示した「なるほどカードA」を提示した。全ての児童が記述することができた。記述内容には次の二つのタイプがあることが分かった。一つは、第6時に「バッタがいました」、第7時に「白い（薄茶色）カエルがいました」のように、第6時とは異なる対象物について気づきを自覚しているタイプである。このようにかいた児童は16人(64%)であった。もう一つは、第6時に「バッタがいました」、第7時に「バッタとカエルは跳ねます」のように、自分が見つけた対象物とそれとは異なる対象物との共通点に気づき、気づきを関連付けたり、第6時に見つけた対象物についてより詳しく特徴や様子について気付いたりすることができたタイプである。このような児童は、8人(32%)、両方とも記述した児童は1人(4%)であった。全員が気づきを関連付けることができた。

児童は生き物の体の特徴や見つけた場所などに気付いたり、植物の匂いや色などの特徴について気づきを自覚することができた。かいた「なるほどカードB」を基に友達と感想や意見を伝え合ったり、身近な人たちとの交流の後に「なるほどカードA」を用いて表現したりする活動を取り入れることで、関連付けられた気づきを生むことができた。

② 抽出見についての考察

抽出見Aは、葉のいい匂いがする理由を知りたいと思っていたが、友達との交流で、「色が黄色っぽいから甘い匂いがする」「枯れ葉だから甘い匂いがする」という意見を聞き、「いい匂いのする葉っぱのことをもっと知りたいなと思いました」と興味や関心を高めている。カツラの葉のことを記述していた抽出見Bは、友達との交流後は、岩宿遺跡の公園で見つけた虫のことを思い出し、

生き物の住んでいる場所について分かったことを記述している。カエルのことを記述していた抽出児Cは、友達との交流後は岩宿遺跡の公園で見つけたミズキを思い出し、ミズキを初めて見てきれいであったとことを記述している。友達との交流を通して抽出児B、抽出児Cとも交流前とは異なる対象物について気づきを自覚し、見つけた対象物を思い出し、気づきを関連付けることができた。また、抽出児Bは、「虫が怖くなくなった」という、自分自身の成長にも気付いている。

### 3 対象と自分との関わりへの気づきや自分自身の成長に気付くための「なるほどカード」の有効性について

#### (1) 第24時の結果

(単元全体を振り返り、かきためた「なるほどカード」を新聞や絵本、巻物、屏風にまとめ、見返す場面)

##### ① 全体の様子

単元全体を振り返ることができるように、図10の「なるほどカードA」を提示した。できるようになったことや分かったこと、頑張ったことを思い出し、伝えたい相手に知らせることができるようにした。児童は、「なるほどカードA」に記述した後に、かきためた「なるほどカード」を新聞や絵本などにまとめて見返し、単元全体の学習を振り返った。

第24時の「なるほどカードA」の記述内容は、図11のとおりである。「おもちゃを修理するのを頑張った」「きりとか目打ちとか、うまく使えるようになった」「葉っぱ博士になった」など、できるようになったことや頑張ったこと、得意になったことを記述した児童は21人(91%)である。頑張ったことや得意になったことをどちらもかく児童がいた。「ハナミズキの実は、意外と小さくて、私の小指くらいです」など、分かったことを記述した児童は2人(9%)である。

また、友達と協力できたことや、友達が増えたなど、身近な人との関わりについて気付くことができた児童や、「岩宿(遺跡の公園)に行ってもた虫を探したい」など、自然に興味や関心を持ち、次の活動への意欲につながった児童もいた。全員の児童が、自分自身の成長に気付くことができた。

新聞や絵本などが完成した後で、友達と見せ合う姿も見られた。事後調査の結果は、図12のとおりである。

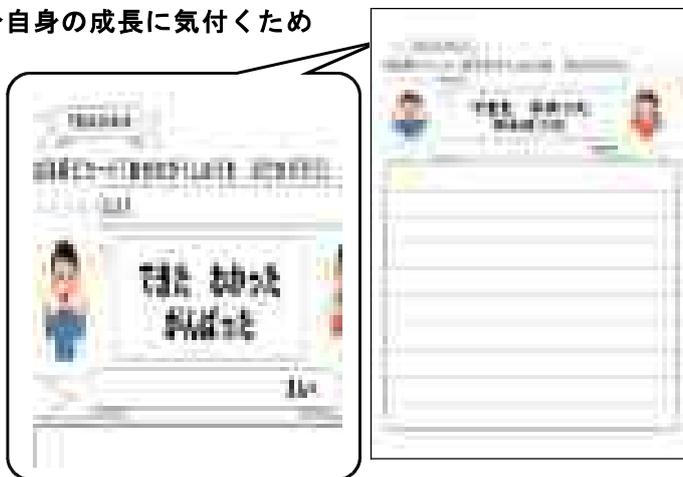


図10 第24時「なるほどカードA」



図11 第24時の児童の記述「できるようになったこと・分かったこと・頑張ったこと」

注：調査数25人 複数回答



図12 事後調査の結果

調査数：23人

## ② 抽出見の様子

表3は、抽出見A、抽出見B、抽出見Cの「なるほどカードA」記述内容をまとめたものである。

表3 抽出見A・抽出見B・抽出見Cの「なるほどカードA」の記述内容

注: ~~~~~ は自分自身の成長への気付き

~~~~~ は対象と自分との関わりへの気付き

| 抽出見A                                                                                                                                                                                                                                                                                | 抽出見B                                                                                                                          | 抽出見C                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| できた・分かった・頑張った                                                                                                                                                                                                                                                                       | できた・分かった・頑張った                                                                                                                 | できた・分かった・頑張った                                                                                                                                                        |
| <p>私が岩宿に行った時、何か分からないけど、固い実を見付けました。博士が固そうにその殻を割ってくれました。その実からマテバシイ位の大きさの実が出てきました。種かなと思いました。その殻と実がよさそうだなと思って持ち帰りました。それで秋のお弁当を作りました。ママに見せたら、すごいねと言われました。今度、岩宿に連れてってもらってその実を調べたいです。</p> <p>お祭りで幼稚園の子にやり方をたくさん教えたので、教えるのがうまくなりました。○○ちゃんと二人しかいなかったから膝を曲げた方がいいよといろいろ教えました。○○ちゃんと頑張りました。</p> | <p>葉っぱとかを捨てるようになったよ。葉っぱ博士になったから、違う公園で拾いたいな。バッタとかをいっぱい捕まえられて嬉しかったよ。いとおもちゃができました。虫博士になって虫の名前が分かるようになったり、いっぱい捕まえられるようになりました。</p> | <p>私は、茶色いカマキリを見てびっくりしました。あと、マテバシイを見たらドングリの帽子がいっぱいくっついていて、おもしろかったです。大きなバッタを見てびっくりしました。あといい匂いのする葉っぱを見付けました。初めて見ました。バッタを捕まえるのが得意です。手で捕まえられるようになりました。バッタの背中を持つといいです。</p> |

## (2) 第24時の考察(単元全体を振り返り、かきためた「なるほどカードA」をまとめ、新聞や絵本を見返す場面)

### ① 全体の考察

秋の自然物のことを一番最初にかいた児童は18人(78%)であった。その理由としては、単元の学習を時系列で振り返っていたことが考えられる。

100%の児童が自分自身の成長に気付くことができたが、対象と自分との関わりについて気付くことができた児童は6人(26%)であった。「なるほどカードA」に自分自身の成長への気付きをかいた児童が多かった理由は、単元の学習を通して自分自身が頑張ったり、出来るようになったことが増えたりしたことで自分自身の成長を実感したためと考える。「なるほどカードA」にまとめる時には意欲的に記述し、書くスペースが足りないほどであった。

事後調査の結果(図12)から、新聞や絵本、屏風、巻物にまとめることは、23人(92%)の児童が楽しいと答えている。新聞や絵本、屏風、巻物を読んで「自分の頑張ったことが分かる」「勉強を思い出せる」と答えた児童は、ともに23人(92%)であった。これまでにかいた「なるほどカード」を新聞や絵本、屏風、巻物にして見返し、単元全体の学習を振り返った時の児童の感想には、「したことを思い出せる」「気持ちがいっぱいあふれるよ(込められている)」「(絵本を使って)頑張ったことをみんなに伝えたい」などであった。これらの言葉から対象と自分との関わりや、自分自身の成長に気付くことができたと考えられる。

事後調査の結果や児童の感想から、表現方法を選んで新聞や絵本、屏風、巻物にまとめたことで、児童が主体的に活動することができた。新聞や絵本、屏風や巻物が完成した喜びから友達と見せ合ったり、読み合ったりして「なるほどカード」を見返し、単元全体の学習を振り返ることができた。好きな表現方法を選び、でこれまでにかいた「なるほどカード」をまとめて見返し、単元全体の学習を振り返ったことは、対象と自分との関わりに関心したり、自分自身の成長に関心したりするのに有効であった。

### ② 抽出見についての考察

抽出見Aは、「膝を曲げた方がいいよ」という記述から、けん玉をする時のコツが分かり、対象と自分との関わりへの気付きを生み出すことができたことが分かる。また、教えるのがうまくなったこと、友達と頑張ったことの記述から、自分自身の成長にも気付くことができたと考えられる。

抽出見Bは、「葉っぱとかを捨てるようになったよ。葉っぱ博士になったから、違う公園で拾い

たいな」「虫博士になって虫の名前が分かるようになったり、いっぱい捕まえられるようになりました」の記述から、自分自身の成長に気付くことができたことが分かる。

抽出児Cは、「バッタを捕まえるのが得意です。手で捕まえられるようになりました」の記述から自分自身の成長に気付くことができたことや、バッタを捕まえるときは「バッタの背中を持つといい」という記述から、対象と自分との関わりに気付くことができたと考える。

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

観点を示した「なるほどカード」を用いることは、気付きを自覚し、気付きの質を高める児童を育成することに有効であった。

- (1) 活動や体験をする場面で、観点を示した「なるほどカード」を提示したことで、活動や体験のめあてを持たせることができた。そのため、興味や関心を持続させることができ、学習意欲を高めることに有効であった。また、活動や体験を振り返る場面で、観点を示した「なるほどカード」を提示したことは、活動や体験を通して対象への無自覚だった気付きを自覚したり、気付きを関連付けたりするために有効であった。
- (2) 身近な人たちとの交流の後に、観点を示した「なるほどカード」を活用したことは、友達と気付きを共有し、気付きを関連付けることに有効であった。
- (3) 単元の終末において、新聞や絵本、屏風、巻物にかきためた「なるほどカード」をまとめ、単元全体の学習を振り返ったことにより、気付いたことを再確認することができ、対象と自分との関わりや自分自身の成長に気付き、気付きの質を高めることに有効であった。

### 2 課題

「なるほどカード」を作成する際には、児童の実態や授業のねらい、活動や体験の内容に応じて観点の内容や数などに留意し、工夫して指導にあたる必要がある。

## VIII よりよい実践に向けて

- (1) 国語科の書く領域との連携を意識し、国語科で学んだ知識を生かしていけるように工夫する必要がある。
- (2) 児童の実態や地域の状況に応じて観点を精選し、さらに良いものにしていく必要がある。

### 〈参考文献〉

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 生活編』 日本文教出版 (2008)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン』 (2012)
- ・田村学著 『今日的学力をつくる新しい生活科授業づくり』 明治図書 (2009)

### 〈担当指導主事〉

鈴木 貴子 足達 哲也